

地域資源の木を活用した純国産精油の生産体制の確立と成分分析の徹底

ヒノキ・クロモジなど地域資源を活用し、地域ごとに最適な精油の生産体制を確立することで、地域振興に貢献する。また、トレーサビリティの徹底と成分分析の徹底により、安全な精油を生産し、品質保証の専門機関となることで全国の和精油生産を促進する。

アロマト株式会社

受付番号：2513121730

代表者名 代表取締役 斎藤 環
所在地 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13
連絡先 03-5363-2366

資本金 100万円
従業員 4人
URL <http://aromato.co.jp/>

取組みの背景

2004年から、輸入したアロマ関連商品の通信販売を開始した。しかし、アロマが普及するにつれ、同様の商品を扱う通信販売業者が増え、競争が激化した。差別化を図るため、自社商品の開発を試みた。日本製の精油（和製油）に着目したが、和精油を生産する事業者の多くは、個人事業主や林業との副業で小規模なものばかりであった。

精油の成分分析は非常に複雑なうえ、日本には分析機関が少なく技術やデータが蓄積されていないという課題がある。そのため、純国産精油の製造・品質保証の体制を確立して、安全で高品質なアロマを提供する目標を掲げた。それにより、全国に普及して地域産業の活性化と雇用が創出できると考える。

取組みの内容

自社商品の開発のため「和製品の生産体制の構築」を図り、「海外展開を視野にいたったブランドの構築」を目指した。

和精油の生産体制の構築にあたって、まず、日本で育成している植物から精油を採取し、市場性の高い商品を開発するための調査を実施した。そして南会津針生地区での調査をもとに、事業化の焦点を「クロモジ」「ニオイコブシ」「杉」の3品目にした。採集したこれらの原料を試験蒸留器を用いて精油のテスト蒸留を行い、精油生産の可能性の有無、生産効率、香りのテストなどを実施した。

テスト用として、イタリア製の小型蒸留器を導入した。精油蒸留の可能性をテストし、各植物の部位や粉碎方法と採油率の相関分析調査や従来精油として流通していない木や草（笹、ニオイコブシなど）の可能性を探った。そこで得たデータをもとに、日本製の中型蒸留器を導入した。効率を追求し、パイロットテスト用に使用した。

テスト蒸留器は容量12Lで材料を3～5kg程度入れ、湯を沸かして蒸気を発生させる方式をとった。テストの結果、原料の種類別の効率の良い蒸留方法の目途をつけることができた。最終的には、当初目標とした3種類を原料（「クロモジ」・「ニオイコブシ」・「杉」）とし、事業化することとした。原料の調達には会津地元民の協力を得て、それぞれの収集場所、収集方法、時期、採集量などを検討し、精油を23リットル試験採算する目途をつけた。



イタリア製「小型蒸留器」

強み

「香りの空間デザイン」を掲げ、場所や目的に応じた最適なブレンドオイルを提案している。場所は、病院や介護施設、サロンや美容院、オフィスや学習塾などと幅広く、香りの導入を検討している顧客に対してヒアリングを行い、希望によりオリジナルのブレンドオイルの作成も行っている。導入後も、顧客からのフィードバックを元に、随時相談を受け付けており、それぞれのニーズに合わせた香りの提案を強みとしている。

また、「アロマの普及活動」にも力を入れている。社内にはアロマに関する専門的な知識を有する公益社団法人日本アロマ環境協会認定セラピスト2名、インストラクター2名がいる。またアロマの販売と正しい知識の普及を行うため、ワークショップの開催やアロマ関連資格の講習を開催している。



店舗内の様子



アメリカ製「大型精油蒸留器」

各種テストを行い、事業最適化のシミュレーションをしたうえで、アメリカ製の大型精油蒸留器を導入した。実験と改善を重ね、本蒸留器を導入したことで、事業レベルのロットで蒸留した際に、最適な蒸留時間、粉碎方法などの知見が得られた。さらに、事業採算性を向上するための各種改良も行った。

試作された精油は、ガスクロマトグラフを使い、成分分析（質量分析）を行った。当初は自社で分析装置を設置しようと考えていたが、予定より高性能の分析装置が必要なことが判明したため、導入を断念し、精油専門の分析機関に依頼をした。結果、南会津の「クロモジ」の種類は「オオバクロモジ」で、日本国内に流通している他の産地と比べても芳香成分が多いことが判明した。

■ 取組みの成果

純国産精油製造については、今回の設備導入と試作を行ったことで、品質管理や商品化の目途がたった。「クロ

モジ」・「ニオイコブシ」の精油を製品化し、どちらもその香りの良さと、純度の高さや成分分析による品質の良さを打ち出していく。大型百貨店や大型雑貨店での販売のほか、インターネット通信販売で販売し、スパリゾートやホテル・エステなどでの導入も広げていく。さらに「ハッカ」・「しょうが」・「柚子」の精油の製品化を目指して試作を重ねていく。

また、地域を巻き込んだ取り組みも実施するようになった。本事業による南会津での取り組みが、福島県で高評価を受けた。そこで南会津の植物から抽出した香りを楽しむことができるイベントを開催し、ここではアロマの蒸留体験やワークショップ、物販、展示を行った。今後はこうした取り組みを重ね、精油の生産を地域の産業として根付かせるとともにアロマを普及していく予定である。



南会津・アロマ祭りの様子

そのほか、精油製造の際に出る廃棄物の二次利用にも力を入れるだけでなく、抽出過程で精油と分離した蒸留水をフローラルウォーターとして製品化を目指している。フローラルウォーターは精油と同様古くから西欧で利用されてきたが、最近その効用が再注目されており、マーケットの拡大が見込まれている。